

けんれんいばらき

特集1 茨城県生活協同組合連合会

みまもりあいプロジェクト

特集2 生活クラブ生活協同組合茨城

- 県生協連の主な活動
- 機関会議報告
- 県生協連からのお知らせ
- 12~3月の主な行事予定



2023
12月

みまもりあい♡プロジェクト

見守り合えるまちづくりに取り組む「いばらき みまもりあいプロジェクト」。

立ち上げの背景や活動、今後の展望について、

運営事務局の県生協連と世話人の3人からお話をうかがいました。



【 困っている人を地域で助け合う 】

高齢者人口が85万人を超え、県人口に占める高齢者の割合が3割となっている茨城県。認知症またはその疑いがある方の徘徊による行方不明も多くなっており、高齢者とその家族が安心して暮らせる地域社会づくりが求められています。そんな中、茨城県生活協同組合連合会は「いばらき みまもりあいプロジェクト」を立ち上げ、見守りアプリの普及に取り組んでいます。2022年には「いばらきみまもりあい推進ネットワーク」を結成。各団体の専門性を活かして、活動の幅を広げています。

—「みまもりあいプロジェクト」の立ち上げについて教えてください。

井坂：高齢化社会の問題が進行する中、県生協連では以前から高齢化社会についての勉強会を会員と開いてきました。そこで挙がってきたのが、認知症の問題です。行政主体の取り組みに「SOSネットワーク」など様々なものがありますが、いち早く行方不明者を保護するためには、

行政の活動・事業に、プラス地域住民が普段から無理なく関わり支援できる仕組みが必要と考えました。誰かの「助けて」に、地域から協力者を募って、みんなで助け合える仕組みを作ろうと、2017年に当プロジェクトが立ち上がりました。

—「いばらきみまもりあい推進ネットワーク」はどのように組織されていますか。

井坂：地域の見守り合いをするときに、協同組合だけの力では限界があります。いろんな団体に関わってもらい、各団体のスキルや組織力を活かしながら共に学び連携していこうと、推進ネットワークを作りました。現在は茨城保健生協やJA茨城県中央会などの協同組合、社協、NPO法人など11団体に参加してもらい、ネットワーク会議や情報交換、イベント連携などを行っています。

—ネットワーク世話人のお二人が所属している茨城保健生協、JA茨城県中央会について、どのように連携しているか教えてください。

山川: 茨城保健生協は、医療と介護事業を行っています。創立当初から無差別平等（だれでも・どこでも・いつでも）の医療・介護と福祉の実現に取り組んできました。「認知症になりたくない」と思う人も多い中、認知症に対する理解を深めないと今ある偏見は払拭できないと感じます。そこも私たち専門家が正しい啓発をしていくことが必要です。認知症の方やそのご家族が安心して暮らせる地域づくりの一助になればと活動しています。



鯉沼: 当プロジェクトには主にJAの組織力を活かした広報活動やイベント集客などの面で連携しています。JAでも認知症サポーター養成講座を行っており、私も講師を務めています。講座の中で、見守りアプリの紹介や「みまもりサポーター」登録の呼びかけをして地域の守り手を増やしていきたいです。

ープロジェクトの活動について教えてください。

井坂: 活動の柱は「みまもりあいアプリ」の普及です。アプリは、行方不明者の家族や関係者が検索依頼を出すと、アプリを通じてその情報が届き、地域の人々が検索に協力できるというものです。アプリでは本人の写真や特徴が手元に届くので、検索する側・依頼者の正確な情報共有に有効です。

他には「つどい」の開催や「みまもりサポーター」の登録推進、11月には初めて、アプリを使った体験イベントも行い、参加者にその場でアプリをダウンロードしてもらって会場内にいる迷子役を探してもらいました。

【 社会の問題を自分ごととして考える 】

ー「つどい」や見守りアプリの体験イベントを振り返っていかがでしたか。

山川: 「つどい」は昨年に引き続き、講演会と認知症についての映画上映を行いました。参加者の多くが年配の方で、身近に認知症の方がいたり、関わっている方たちが問題意識を持って参加してくれています。一方で、若い人の参加がすごく少ないことはこれからの課題と感じています。

アプリの体験イベントは実際に使ってみることが重要だと思いました。会場でいただくご意見も「実際の声かけの仕方がわからない」など具体的でした。

鯉沼: つどいは、高齢化社会で起こる問題を自分ごととして考える上で、「入り口」を作っていくという意味で大切です。学習の機会となる「つどい」と、実践の「イベント」で分けてやっていくのはいいと思います。挙がってきた意見を踏まえて、声かけでは今後、お手本となるマニュアルを示せるといいと感じました。



ー今後の展望について教えてください。

井坂: 2023年8月時点でのアプリダウンロード数は27,910人で、検索依頼累積数は918件。ダウンロードが進めば、多くの見守りの目が増えるので、まずは登録者数6万人が目標です。

また、アプリの普及と併せて、サポーターも増やせるように、働きかけをしていきたいです。来年度以降、行政のイベントや商店会などとも連携して、体験型のイベントにも力を入れていきたいと思っています。

山川: これからの地域社会を作っていくときにベースとなるのはやはり、人と人とのつながり・助け合いだと思います。「みまもりあいアプリ」をはじめ、色々な取り組みのそれぞれ良いところを重ねて大きな面を作っていくことで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めたいです。

**みまもりあいアプリ
ダウンロード**



Android



iPhone



会員紹介 **2** 生活クラブ生活協同組合茨城

食、環境、暮らし、 組合員と共に未来をつくる

インタビュー

interview



征矢 優香子

生活クラブ生活協同組合茨城 理事長



大平 隆史

生活クラブ生活協同組合茨城 専務理事



「疑わしいものは使わない」が基本。独自の厳しい基準で作ったオリジナル品をメインに扱う。

組合員の声を大切に

全員登場の自主運営・自主管理

国産、無添加、減農薬にこだわった、安心食材を宅配する生活クラブ。何を選択し、どのように生産、消費するかが未来へつながっているとの考えから、食 (Food) だけでなく、エネルギー (Energy)、福祉 (Care) もできるだけ自給し、循環させる持続可能な社会づくりに取り組んでいます。そんな生活クラブの全国7番目の組織として発足した「生活クラブ茨城」は、今年度40周年を迎えました。征矢理事長と大平専務理事に、これまでの歩みや元氣な組織運営の秘訣、展望をうかがいました。

「1980年代当時は霞ヶ浦の水質汚染が深刻で、環境改善に向けてせっけん運動が盛んでした。そこで手を挙げた人たちが共同購入運動を始めたのが立ち上げの経緯と聞いています」。1983年7月、土浦市で設立総会が開かれ組合員1073名で発足、翌年に牛久配送センターが完成したことで供給設備が整い、活動が本格化していきます。

1991年に水戸センターが開設となり、翌年に茨城有

機農法研究会 (丸エビ倶楽部の前身) と県内産農産物の提携を開始。ここから、生活クラブ茨城が大切にしている生産者との提携が始まりました。大きな転機となったのは、2008年の個配事業の開始でした。これまで班取り組みの共同購入のみだったところ、個配になり利便性が向上しました。現在構える3センターに関しては、1999年に牛久新センター開設 (牛久市猪子町)、2010年に水戸新センター稼働 (水戸市元石川町)、2015年に取手センター (取手市ゆめみ野) 開設となっています。

生活クラブの大きな特徴は、組合員主権による「自主運営・自主管理」という運営基軸です。「組合員みんなが登場して、自分たちで考え行動し、みんなで決めていくということを大事にしています」と征矢理事長。その理念は「商品」のことを「消費材」と呼んでいることにも表れています。生活クラブで提供するのは、利益を追求した「商品」ではなく、消費者の視点で安全・健康・環境に価値を置き、自分たちで作りに上げる「本当に安心できるもの＝材」。消費材にはそんな思いが込められています。組合員と生産者、職員は社会の課題解決に向けて共に歩むパートナー

であり、どの車輪がかけても思い描く未来へ進むことはできません。

けれども40年の歴史の中では、組合員の声が届かない運営時期もあったそう。「1994年からの2年間、支部が廃止となり組合員が一切登場せず、食の安全や専門性に傾倒した時期がありました。この時は組合員が4000名を切るほどに減りました。それだけ組合員の力や組合活動は偉大であるということです」と大平専務理事は振り返ります。

1996年に組織活動が再開され、組合員主権の運営へ転換。その後、さらに自由な活動表現の場にしていこうと、支部活動から「まち運営」、そして「地域くらぶ」へと体制を変えてきました。自由度が高まった反面、組織力を発揮する場面で力が足りないという課題も生まれたと言います。そこで現在は、地域くらぶの在り方を核にしながら行政区ごと組織力も高めていこうと、2022年から5年を目処に、各ブロックが自分たちのやり方で組織改革を進めています。

コロナ禍で再確認した役目と価値 次の10年に向けてタネをまく

同クラブの“強み”はしなやかな組織づくりだけではありません。それが発揮されたのは、コロナ禍でした。巷では一時期商品の欠品が相次いだ中、消費材の欠品はほとんどなかったと言います。「元々、国内自給率の向上を掲げ、輸入品に頼らずできるだけ国内生産者のものを掲げ、消費材は、組合員と生産者が一緒に作

「あったらいいな」を自分たちで考え、カタチに。組合員と生産者が一緒になって食の安全・環境に取り組む。宅配方法も暮らしのスタイルに合わせて「個別配送」と「班配送」から選べる。



40周年記念ロゴ



10年後に向けた
メッセージを入れる
タイムカプセル

り上げる唯一無二のもの。予約共同購入により安定して届けることができたことは、私たちがこれまで築いてきた価値だと自負しています」。活動面では協力の相互扶助の考えから、コロナによる生活困窮者に対して早い段階から食糧支援を開始、組合員からも多くのカンパが寄せられました。

コロナを経験し、迎えた今回の40周年。掲げたプロジェクトテーマは「出会い・つながり・創造する未来」でした。記念行事は、これまでの式典とは趣向を変えて、イベント形式で実施。牛久・水戸・取手の3センターを中継でつなぎ、「40周年のつどい」を各センターで開催しました。「次の50周年が大きな山場と考え、今回は10年後へのタネまきでもありました」と征矢理事長。会場では、組合員たちから募った10年後に向けたメッセージをタイムカプセルに封入する企画もあり、未来へ想いをつなぐ機会となりました。

「これから特に大事にしたいのが、県連や他の協同組合など関連団体との連携。私たちの力だけでは社会は変わりませんが、力を合わせることで地域に貢献できることが広がります。50周年までの目標は、組合員1万人達成。組織の力を強くして社会へ訴える力を大きくしていきたい」。今回まいたタネがこれからの10年でどのように育っていくのか。今後の生活クラブ茨城にますます注目です。



リモートでの開催

県生協連の主な活動



7/18.20

茨城大学生協学生委員会が
ユニセフ募金に取り組みました。



8/26

STOP!! 東海第二原発の再稼働
いばらき大集会に賛同人として参加



9/19

介護保険制度改定にともなう石岡市
長との懇談会



10/2-2/9

10/2～2/9を期間とする茨城大学
公共社会「大学生と消費生活」授業
(16回)を開講



7/28

第3回いばらきまもりあい
推進ネットワーク開催



8/27

2023ピースアクションinいばらき夏を
開催



9/25

台風13号による北茨城市災害復旧ボ
ランティアに協同組合ネットいばらきの加
盟団体と参加して支援をしていました。



10/29

パルシステム茨城 栃木 商品展示会
で、保健生協の協力のもと健康チャレ
ンジ 健康相談会を実施



8/4-9/3

8/4～8/15茨城県庁2階ロビー
8/23～9/3茨城県立図書館1階ギャラリー
で原爆と人間展のパネル展示を実施



8/28

LGBTQと多様性～だれもが生きやすい
まちづくりを考える～オンライン講演会
開催



10/2.5

10/2龍ヶ崎市、10/5水戸市の関係
部署と介護保険制度改定にともなう
懇談会



11/5

いばらきコープ・JA全農いばらき共催
ポケットファームどきどき収穫祭で
みまもりアプリ体験実施

機関会議報告



第3回理事会

開催日時:2023年9月20日(木) 13時30分～15時00分

開催場所:日立シビックセンター101会議室

出席:理事14名、監事3名、オブザーバー1名、事務局1名

議事の経過と結果:

最初に理事鶴長義二は、自ら議長にあたる旨提案し、出席理事に諮った。出席理事は、全員が承認した。その後、理事の出席状況を確認し、本理事会が成立していることを宣言し、議事に入った。

【議決事項】

(1).茨城県生協連災害対策書(案)

2023.08.04修正版について、
井坂専務より前回からの修正点を提案し承認された。

(2).茨城県生活文化課との定期懇談会開催の件について、
井坂専務より提案し承認された。
意見要望の提出期限を10月3日とした。

第4回理事会

開催日時:2023年11月15日(水) 14時30分～16時00分

開催場所:茨城県JA本館4階 第一会議

出席:理事14名、監事3名、オブザーバー1名、事務局1名

議事の経過と結果:

最初に理事鶴長義二は、自ら議長にあたる旨提案し、出席理事に諮った。出席理事は、全員が承認した。その後、理事の出席状況を確認し、本理事会が成立していることを宣言し、議事に入った。

【議決事項】

(1). 2024年1月9日(火)新春交流会開催の件

※理事会前に茨城県生活文化課との定期懇談会
13:30から実施



県生協連からのお知らせ >

01

令和5年度消費生活協同組合(連合会)等 厚生労働大臣表彰を受賞

■団体「茨城キリスト学園生活協同組合」

■個人「茨城県生活協同組合連合会 会長理事 鶴長義二」

10月23日(月)ベルサール虎ノ門での表彰式で、茨城キリスト学園生活協同組合の逸見理事、茨城県生活協同組合鶴長会長理事が出席し表彰を受けました。

茨城キリスト学園生活協同組合は、学生への食の支援活動、学生委員会による組合員活動の推進、ウクライナからの人道的留学生支援などが評価されました。鶴長会長理事は、元いばらきコープ理事長時の行政との連携事業の拡大、社会福祉貢献事業(子ども支援・食育活動・奨学金制度など)、また県連会長として行政の委員(県消費者審議委員など他)としての関りと貢献が評価されました。



左:県生協連鶴長会長理事 右:茨城キリスト学園生活協同組合逸見理事



全国の表彰された団体・個人

02

2024年 新春交流会の開催のお知らせ

(主催 茨城県生活協同組合連合会)

- 日 時 2024年 1月9日(火) 時間/14:00~16:00(受付13:30~)
- 会 場 ホテル ザ・ウェストヒルズ水戸
会場/茨城県水戸市大工町1-2-1 TEL.029-303-5111
- 対 象 会員生協、行政、国会議員、県議会議員、市町村長、関係友好団体
- 人 数 約260名[立食形式の開催となります]



03

茨城県ユニセフ協会ハンドインハンド募金のお知らせ (主催 [unicef](#))

- 日 時 2023年12月16日(土) 時間/13:30~15:00
- 会 場 JR水戸駅南口



県生協連の活動予定

茨城県生協連

12～3月の
主な行事予定



2023年 12月	4日(月) 第8回組合員活動責任者会議 / 第9回ピースアクション実行委員会
	14日(木) 協同組合ネットいばらき10周年記念大会
	20日(水) 第3回会長・副会長会
2024年 1月	9日(火) 第5回理事会 / 新春交流会 ※組合員活動責任者会議 / ピースアクション実行委員会日程変更
	10日(水) 日本生協連全国方針検討会
	11日(木) 日本生協連全国方針検討会 / 日本生協連賀詞交歓会
	12日(金) 日本生協連全国方針検討会
	23日(火) 第4回日本生協連中央地連運営委員会 / 第3回県連活動推進会議
2月	5日(月) 第9回組合員活動責任者会議 / 第10回ピースアクション実行委員会
	14日(水) 第4回会長・副会長会
3月	4日(月) 第10回組合員活動責任者会議 / 第11回ピースアクション実行委員会
	15日(金) 第2回職域委員会
	21日(木) 第6回理事会
	27日(水) 第5回日本生協連中央地連運営委員会 / 地区別・議案検討会議 ※3月に組合員活動交流会を開催予定



茨城県

令和6年1月から3月に 「若者向け悪質商法被害防止共同キャンペーン」を実施します！

就職や進学などにより生活環境が変わる時期を迎える若者は、社会経験の少なさから、悪質商法などの消費者被害に遭いやすい傾向があります。

茨城県消費生活センターでは、関東甲信越地区の都県、政令指定都市、国民生活センター及び県内の関係機関と共同で、若者の消費者トラブルの未然防止を目的とした啓発キャンペーンを令和6年1月から3月に実施しますので、若者の被害未然防止に向けた、悪質商法の注意喚起に御協力をお願いします。

詳細は、国民生活センター
ホームページをチェック



新生活でも気を付けたい
儲け話トラブル



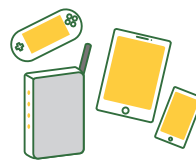
新生活を狙った
訪問販売トラブル



引越しや不用品回収などの
引越し関連トラブル



退去時の原状回復などの
住宅の賃貸借トラブル



スマホやネット回線などの
通信契約トラブル

消費者
トラブルの
ご相談は

消費者ホットライン

☎188 (いやや)へ！

お近くの消費生活相談窓口、または国民生活センターをご案内します。

茨城県消費生活センター ホームページは

いばらき消費生活ナビ

検索



発行 茨城県生活協同組合連合会

〒310-0022 水戸市梅香1丁目5番5号 茨城県JA会館分館5階 TEL.029-226-8487 FAX.029-224-1842

URL: <http://www.ibaraki-kenren.coop/index.html> E-mail: ibkenren@ibaraki-kenren.coop